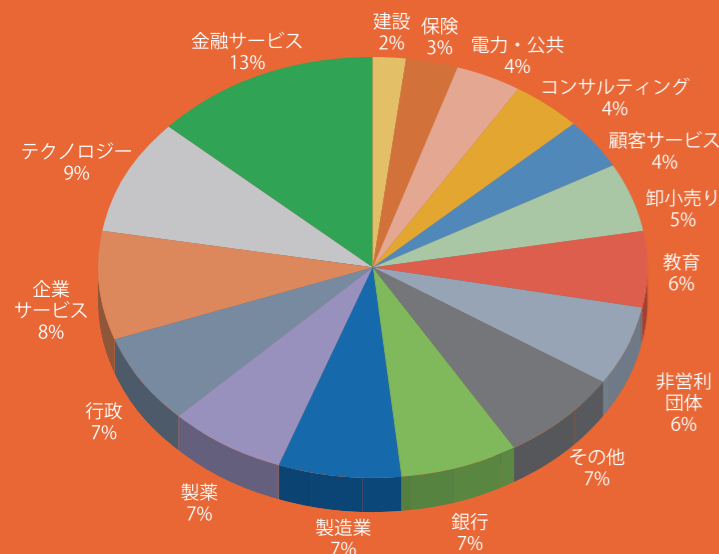


会社概要

KnowBe4は、セキュリティ意識向上トレーニングとフィッシングシミュレーション訓練・分析を組み合わせた世界最大級の統合プラットフォームのプロバイダーです。IT/データセキュリティ・エキスパートである Stu Sjouerman（ストゥ・シャワーマン）によって2010年8月に米国フロリダ州タンパベイで設立され、セキュリティの「人的要素」にフォーカスして、ランサムウェア、CEO攻撃/詐欺、ビジネスメール詐欺（BEC）を始めとする巧妙化するソーシャルエンジニアリング手口などの社員ひとりひとりのセキュリティに対する認識を高めることで、「人」を狙うセキュリティ脅威から個人、組織、企業を防御することを支援しています。世界で最も著名なサーバーセキュリティ・スペシャリストであるKevin Mitnick（ケビン・ミトニック）がCHO（Chief Hacking Officer）を務めています。同氏のハッカーの視点に立った知見をベースにKnowBe4のトレーニングプログラムは組み立てられています。2019年9月現在、2万8千社を超える企業や組織がKnowBe4を採用して、防御の最終ラインとして「人」による防御壁を構築しています。今、KnowBe4は世界が認めるセキュリティ意識向上トレーニングのマーケットリーダーとして確固たる地位を築いています。その評価はガートナーが同社のマジッククアドラントで3年連続でリーダーとして認定するほか、企業成長力や企業文化においても高い評価を獲得しています。

28,000社
を超える顧客数

※2019年9月時点



- セキュリティ意識向上トレーニングとフィッシングシミュレーション・分析を組み合わせた“世界最大級の統合型プラットフォーム”
- 2010年に米国フロリダ州、タンパベイで設立
- セキュリティを極めるプロ集団:CEOを始めとする幹部はアンチウイルス企業創業者/ITセキュリティの専門家
- 進化するソーシャルエンジニアリング、スパイファイッシング、ランサムウェアへの対策支援
- GRC（ガバナンス・リスク・コンプライアンス）ツールの提供迅速な監査を可能にし、セキュリティコンプライアンスとセキュリティリスク対策を支援



サイバーセキュリティ注目企業
500社中、第2位 (2018年)



急成長企業上位500社中
第96位 (2018年)



企業文化評価上位153社中
第3位 (2017年)



「人」を狙うフィッシング詐欺メールの防御を実現可能にする
クラウド管理型セキュリティ意識向上トレーニングプラットフォーム

今、世界が認めるマーケットリーダーへ

Human Firewall シミュレーション&アセスメント
Security Awareness Training Computer Based Training

KnowBe4 Japan 合同会社

〒100-0004
東京都千代田区大手町 1-9-2
大手町フィナンシャルシティ グランキューブ3階
Global Business Hub Tokyo
<https://www.knowbe4.com/>
<https://www.knowbe4.jp/>
E-Mail : Info@knowbe4.jp

販売代理店:
株式会社東陽テクニカ 情報通信システムソリューション部
〒103-8284 東京都中央区八重洲 1-1-6
TEL : 03-3245-1250 (直通) FAX : 03-3246-0645
E-Mail : ict_security@toyo.co.jp
<https://www.toyo.co.jp/ict/maker/detail/knowbe4.html>

KBF-4951-00-1909000-087-30-F94-CA

KnowBe4
Human error. Conquered.

あなたがハッカーだったら、皆さんの会社のネットワークに侵入できますか？
ハッカーの目線に立って、自社のセキュリティを見直してみませんか。

”これまでテクノロジーソリューションで解決しようとしてきたが、ソーシャルエンジニアリングはファイアウォールを含むすべてのセキュリティテクノロジーをすり抜けている。テクノロジーは重要であるが、人間とプロセスに目を向けなければならない。”

- Kevin Mitnick (ケビン・ミトニック)

情報漏えいの大半は、「人」を標的とする攻撃によって引き起こされています。人は最も脆弱なリンクであり、ここをハッカー達は突いてきています。ハッカーの手口は日々巧妙化しており、セキュリティテクノロジーだけでは、「人」を狙うセキュリティ脅威を防御することが困難になっています。

“Human Firewall” を実現する KnowBe4 の統合プラットフォーム：
セキュリティ意識向上トレーニング+フィッシングシミュレーション・分析

Human Firewall

KnowBe4 は
セキュリティ対策における
第8層を形成
“ヒューマンファイアウォール”
の構築



8. “セキュリティ意識向上”層

7. アプリケーション層
6. プレゼンテーション層
5. セッション層
4. トランスポート層
3. ネットワーク層
2. データリンク層
1. 物理層

「人」を狙うセキュリティ脅威を防御するには、「人」による防御壁、つまりヒューマンファイアウォールがアプリケーション層の上に不可欠になってきています。「人」のうっかりとしたミスは、不可避です。「人」による防御壁を作り上げるには、社員を継続的にトレーニングし、“セキュリティを第一”のマインドセットに形成し、セキュリティ脅威への警告を定期的に発信し続け、悪意のあるハッカーからの不審メールを事前に見抜く力を身に付けることです。これを実現可能にするものこそが、KnowBe4 が提供するセキュリティ意識向上トレーニングとフィッシングシミュレーション・分析を組み合わせた多機能統合型プラットフォームなのです。

KnowBe4
Human error. Conquered.

“やられる前に知る”

ここに KnowBe4 (**Know Before**) の社名の由来があります。
「人」は最も脆弱なリンクであり、ここをハッカー達は突いてきています。「人」は、騙されやすい、「人」は、うっかりミスをする。ヒューマンエラーの克服こそが私たちが目指すところです。

グローバルなエンタープライズ顧客から生まれた “New School” の登場
～ KnowBe4 は全く新しい概念でセキュリティの “New School” を実現～

私たちは、セキュリティ・テクノロジー・カンパニーではありません。

私たちのミッションは「皆さんの従業員をセキュリティスマートなワークフォースへ意識変革し、日々求められるセキュリティ上の判断に社員ひとりひとりの的確な意志決定を可能にする」ことです。KnowBe4 は、このために必要な多機能統合型プラットフォーム（セキュリティ意識向上トレーニング+フィッシングシミュレーション・分析）のプロバイダーです。



訓練と教育を連動&自動化



TRAIN

グローバル化に対応したセキュリティ意識向上トレーニング・プログラム
(多言語対応による “全社レベル” でのセキュリティカルチャーの醸成)

クラウドベースのトレーニングでは、多言語に対応したオンデマンド・対話型のeラーニングとテストを組み合わせ、様々な利用形態で実現。世界最大のセキュリティトレーニング・コンテンツライブラリーへのアクセスを可能。模擬訓練のテスト結果分析に基づき、個人、組織にカスタマイズされたトレーニング受講プログラムが数分で作成・展開可能。ポータルサイトにおいて、豊富なユーザー管理機能を提供。

PHISH

豊富なテンプレートを活用し、“本番さながらな攻撃”の疑似体験

自社の組織に適したテンプレートとその難易度を参考に、カスタマイズ可能な模擬訓練を自動的に構成。豊富なテンプレートとランディングページを活用した“本番さながらな攻撃”の疑似体験。ランサムウェア攻撃、スパイフィッシング攻撃など、不審メールを見抜く力を大幅に向上。USB、音声による多彩な攻撃もシミュレーション可能。同時に、社員からIT管理者へ不審メールを報告する仕組みも整備。

ANALYZE

是正学習を可能とする効果測定と、きめ細かなレポートニング

模擬訓練のテスト結果から、個人、部署、会社全体の被害リスクをスコア化し、PPP (Phishing Prone Percentage: フィッシング詐欺ヒット率) を可視化。トレーニング受講状況とフィッシングテスト結果の両方に対する統計情報とグラフ分析を示すきめ細かなレポートニング。個人スコアの改善が必要な社員へは、追加トレーニング受講へ自動的に誘導。同時に、ROIも可視化。

業界をリードする実績と ROI

ベストプラクティスの推奨事項を順守しながら、継続的なトレーニングに加えて、少なくとも月に1回はフィッシング攻撃の訓練を実施。結果は劇的な効果として現れました。実績に裏付けされた一貫したセキュリティ意識改革をもたらす KnowBe4 のトレーニングプログラムの効果は、平均 PPP を 30% から、業種や規模に関係なく、2% へ劇的に削減しました。

- マルウェア感染率を減少
- データ損失率を減少
- サイバー犯罪に騙される機会を削減
- 全社員の生産性を向上
- “セキュリティを第一”のマインドを形成する

127% ROI

1ヶ月でのROI成果
米国フォレスター調査
Forrester TEI: Total Economic Impact

